

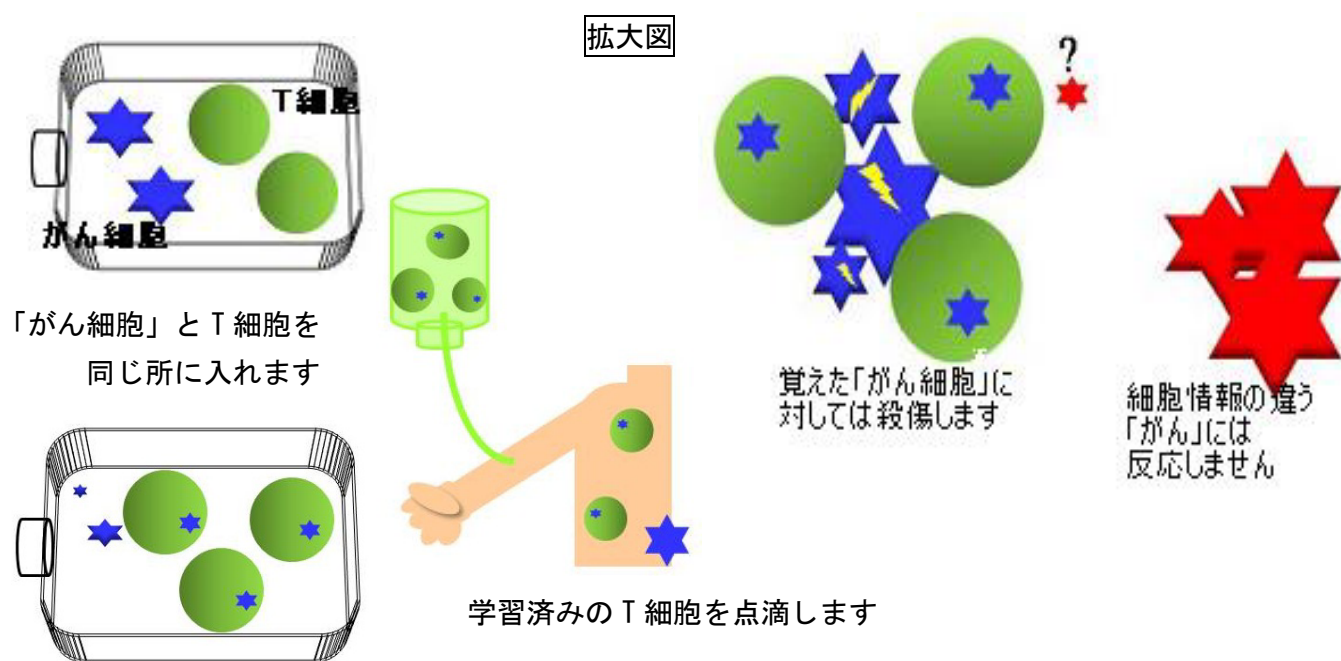
CTL 作製について

<CTL とは>

免疫細胞である NK 細胞は自然免疫系に属し、かたちの異常な細胞（がん細胞など）があると自然に排除しようと動きます。しかし、同じ仲間である T 細胞は獲得免疫系に属し、これは異常なかたちの細胞がいることを学習させないと自ら排除に動くことはありません。T 細胞の中でも「がん細胞」に対して殺傷性があるものをキラー T 細胞といいます。その中でも「がん細胞」を特別に学習させた T 細胞を腫瘍特異的キラー T 細胞 (CTL) と呼びます。

患者様の体内から取り出したがん細胞を入手できればこの CTL を作製することが可能です。

ただし、入手できた「がん細胞」のみ学習させますので、転移などで、「がん細胞」自体に変異があると、効果は期待できなくなります。



T 細胞が「がん細胞」を学習します

<培養条件>

まず、手術で体内から取り出された「がん細胞」(検体)が必要です。

培養には時間とコストがかかりますので、ANK 療法を 1クール以上される方限定とさせていただきます。

また、検体到着は、遅くともリンパ球採取後 1 週間以内が必須となります。これを超えて到着した場合、CTL 作製に必要な T 細胞集団が確保できず、CTL 培養はできませんのでご注意ください。

<検体について>

各種ありますので、一覧表をご覧ください。一番入手しやすい検体をお考えください。

<p><パラフィン包埋ブロック> 腫瘍をロウで固めたもの <薄切片> 上記を薄く削ったもの</p>	<p>手術を受けられた病院の病理部で管理されています。 ※スライドでは作製できませんのでご注意ください。</p>
<p><生腫瘍検体> 手術当日に取り出されたがん細胞</p>	<p>手術を執刀される先生が、ご承諾いただければ入手可能です。 ※腫瘍を入れる容器はあらかじめ指定先にご送付します。</p>
<p><凍結検体> 取り出された腫瘍を凍らせたもの</p>	<p>凍結方法により、作製できない場合もあります。</p>
<p><胸水・腹水・その他体液></p>	<p>病状により、必ずしもがん細胞が存在するとは限らないため、 作製できない場合もあります。ご了承ください。 ※専用のバックに、できるだけ無菌的にいただいでください。</p>

<作製手順について>

- ANK 療法実施医療機関より「検体提供依頼書」を受け取り、手術の執刀医または主治医にお渡しください。
- 検体を受け取られましたら、ANK 療法実施医療機関にお渡しください。
病院から直接送付と言われた場合、宛先は東洞院クリニックをご指定ください。
- CTL の培養は、東洞院クリニック培養センター※で行います。
(※東洞院クリニックは細胞培養の委託先です。)